

ウォーターレス・カレント 1月号

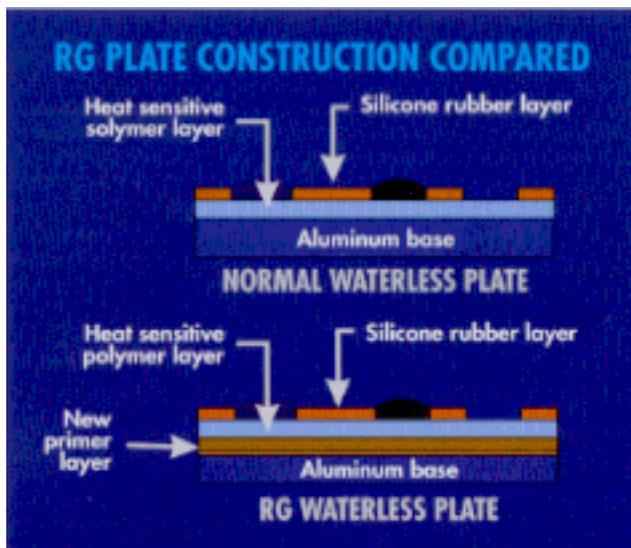
東レの新工場で改良版材の生産に着手

1996年12月、シカゴで水なし印刷の新しい世界的会合が開催され、200名の参加者の前でCTPが紹介された。今日まで水なしCTPへの移行は不確かなものであった。プレートセッターメーカーが水なし版のユニークな要求に合わせて装置を作ろうとしても、水なし版のパフォーマンス、東レの版の具合が問題となっていた。東レは第一世代、エメラルド版で始めたが、印刷会社での結果は適合したものとならず、水なし版をあきらめるか、あるいは、アナログ水なし版へ逆戻りとなっていた。その後続世代の版も失望するようなものであった。手馴れた300線の再現ができないだけでなく、スポッティング(埃汚れ)、傷過敏



性、インキ受容性不良などにも悩まされた。

東レの公式訪問団がシカゴを訪問。左から、渡辺直行氏、小川勇造氏(印写システム事業部長)、高橋精一(買



この図は新版材 RG 版の相違点を示している。新版材では 4000dpi で焼付けができ、300 線の細線の再現が可能となる。

易課長)、前田大輔氏(東レアメリカ社・マーケティングコンサルタント)各氏

第5世代の東レCTP版では東レプロセッサで使われているブラシでの厳格な品質管理とあいまって、その市場評価には大変力強いものがある。Copy Craft社は、テキサス州にある長年の水なし印刷業者であるが、東レの最新、RG版とMTJ社(スクリーン)のプレートセッターの組み合わせによる信頼性のある生産方法で、300線の細線物をこなしている。

RG版の成功と同時に、東レは日本で新版材の製造工場を完成しようとしている。新しい工場はCTP版の製造の専用を目指し、古い設備はアナログ版に転換する。新しい製造ラインの設備類は2003年1月末に据付完了する。新しい装置の試運転は2月に行われ、その稼働はこの夏ごろとなる。

東レの製造ライン分離の結果、アナログ版とCTP版の切り替え生産のわずらわしさは解消される。また、版の供給体制が一段と改良されよう。

RG版は4000dpiで焼付けがきくので、前世代の版より高細線ができる。以前のものは、200~240線までの制限があった。RGサーマルCTP版では耐刷力が伸び、傷への耐性が上がっている。この改良とは既存のシリコン層、感熱ポリマーとアルミベース基材に、特別のプライマー層を付け加えたことによる。新しいプライマー層はアルミニウム基材上のポリマー上にあり、プライマー層の上にシリコン層が来る。結果として、濃度計で版材が計測できる。他の利点として、版現像の現像許容幅が大きくなる。

この開発は既存の水なし印刷業者、将来にわたって水なしを考慮している方々にとって大変な朗報である。

最初のスペインの会員、INNOVACIONES PARA ETIQUETAJE社の紹介

スペインのバルセロナ州、テラッサのラベル印刷業者 Innovaciones Para Etiquetaje, s.l.社 (IPE社)の入会を歓迎し、ご紹介申し上げます。同社は、CODIMAG社のVIVA340水なし印刷機と数台の凸版・フレキソ印刷機を所有する。その社名が如実に物語っているが、同社は絶えず、顧客に革新的なことを提供サービスしている。大量処理でなく、IPE社の狙いは最高品質なるものを届けることを、創業以来の掲げた業務としている。同社はバルセロナから30km離れたところで、その商圏は近隣はむろん、国内、隣国フランスまで活動的にこなしている。同社はかつては、ラベル印刷業者の所有であったが、いまは、起業家、ルイス・エゲア氏のものとなっている。技術取締役である息子のフラセスクが加わった。一時はフラセスクは、その印刷品質の良さからグラビア方式によるラベル印刷の可能性を考えた。彼は展示会参観のため、大西洋を渡り米国での最新開発品を学びに行くこともいとわない。他のスペインの業者の方々は海を渡るほどまで熱心ではない。最近の凸版・オフセット・フレキソ印刷品質の進歩のおかげで、同社はワインのラベルの4色万線再現により、ATEFスペイン・フレキソ・コンテスト(フレキソ協会)での一等賞の荣誉に輝いた。2年前、IPE社の社長エゲアは水なし印刷版を学び、それに大変気に入った。彼の目指すゴールにぴったり

するもので、まさに、より高いラベルの印刷品質を提供するのだと宣言する。IPE 社の狙いは常により良い印刷品質の提供である。より良いラベルを顧客に納めることにより、顧客サービスの改善、顧客関係を強化できるが、これこそ東レ水なし技術でなし得たのである。

この成功は上意下達でなしえた。CODIMAG の代理店、Imprima, S.A.社から VIVA 340 機の購入を決定した途端、幹部は社員に新しい印刷プロセスを指導説明に当たった。指導実技は地域のコンサルタントにより行われた。社内の施行錯誤で行うより、技術への投資こそが重要と確信したからだ。

ワイン市場では、IPE 社のようなラベル印刷業者が顧客にどのような材料を選ぶべきかを、コンサルした営業活動をしている。さらに、彼らは商品を際立たせるにはどのような印刷方式でなすべきかを提案する。IPE 社は水なし印刷と言う優れもので品質誇示ができるので、同業他社より優位な立場に立てる。

IPE 社の成功は市場第一主義でなく、顧客第一主義の会社にこそ適用できるのだ。エゲア氏に聞くと、答える。「顧客との関係が最重要なのだ。ラベル印刷業者は顧客のデザイナーと一体となって行う作業チーム作りをすべきであろう。さらに、印刷以上にもっと広い業務を包含するグラフィックサービスを手がける会社づくりも同様である。」

IPE 社は印刷会社に留まらず、顧客との協業化をはかる。重要なことは、スペインでは 80% のラベルは中小印刷業者により供給されている。好まれた印刷業者は顧客とごく親密な関係を築けるのだ。

4000 万人の人口で 250 社のラベル印刷業者のスペインでは 2 億 8000 万㎡のロールラベルの生産をしている。年間の伸び率は 6~8% である。55 社の湿式ラベルおよび粘着ラベルの業者の抽出調査では、2001 年の売上伸び率は 2% であった。何社かは売上が低下したと言った。地域や国内のニーズに合わせるべく、スペインは過去、数年間にわたり印刷機を相当台数、投資してきた。1999 年には約 80 台が、2,000 年には 67 台が、2001 年には前年より多くの数の機械が設置された。何社かはその製品を輸出にあてているが、これは通常の慣習ではない。IPE 社のような会社は高付加価値ラベルの提供に勢力を集中している。既設の VIVA340 でもって、ニッチ市場、再現性品質とサービスがますます増加するこの市場に食い込み、収益性もものにしてしているのだ。これはひとえに、CODIMAG 機のパフォーマンスによる。(記者注：バルセロナの Bienvenido Andino の W P A への寄稿記事に感謝する。)

水なしは環境トレンドの先導にある

世界的な環境トレンドにより水なし印刷の強力な環境上の地位は、特に企業印刷購買者により支えられている。ニューヨーク地域の調査会社、Nima Hunter, Inc.社の実施調査では、世界的企業のかなりの数の会社は、**契約遵守**もともかく、環境責任と sustainability(無公害開発継続)により顧客のロイヤリティと同時に、利益も得られることに気づき出した。環境と開発に関する世界委員会が定義した、「未来の世代の能力とその世代の必要性に配慮し、

今の世代に合わせた開発「sustainability」を育成するために、これらの先進会社は環境をえり好みした調達を目指している。デュポン、フォード、ホームデポ、ジョンソン&ジョンソン、プロクター&ギャンブル、ソニー、トヨタ、ユニバー、ゼロックスはこれらの脚光を浴びた会社である。この中の数社は既に、水なし印刷を指定している。水なし印刷の耐久性と美しさのバタフライロゴ、WPA の自然環境シンボルを付けた最初の印刷物はフォード社で、同社はヘンリー・フォードの時代から絶えず環境意識を掲げた会社である。

環境に優しいメッセージを伝えたい世界中の会社が、水なし印刷へ転向し、バタフライ・ロゴを際立たせて付けてくれている。NMI 社の報告では、フォード、トヨタ、ゼネラル・モーターズが来年度から、全ての出入り業者には 14001 の取得を求めている。国際標準化機構により策定された ISO1400 群は国際的な、任意の環境マネジメント標準である。WPA では少なくとも、会員 6 社が ISO14001 を取得している、Nuriootpa, South Australia の AQ Australia 社、East Sussex, UK の The Beacon Press 社、of Oxford, UK の Seacourt Limited 社、Hojberg, Denmark の Stibo Graphic A/S 社、Toronto, Ontario の Warren's Imaging and Dryography 社、である。特に、14001 は環境管理システムとなっている。

誰の言うところでも、水なし印刷の環境健全性がビジネス増強になり、新規顧客へのアプローチに繋がったと言う。会員各位はこのバタフライロゴに誇りを持って掲げて頂き、環境の自然化に努力されたい。短に国の環境基準に合わせるのではない、Nima Hunter が言ったが、遵守を超えるのだ。恩恵を獲得することだけでなく、正しいことをやり抜くのだ。

できごと

Cheverly Maryland の Fontana/Affiliated Graphics 社は新台水なし印刷機を 2 台導入、1 台はコーター付き 74 カラット、もう 1 台はハイデルベルグ 102-6 色機である。ロンドンの Hyway Printing 社 Group は残念なことに廃業される。同社は行政管財人の管理下に入り、取引は停止となった。装置類は 2003 年 2 月 19 日オークションにかけられる。オークション情報はロンドンの Colebrook Evans +44-(0)20 742 から得られる。